

十勝総合振興局は19日、管内農作物の生育状況（15日現在）を発表した。生育が遅れていた豆類の収穫作業の進捗（しんちやく）は、台風による雨で水分を含んだ実が乾くのを待っている状況で、小豆は平年より9日遅れている。

今季最後の発表。10月は台風が2度接近したことで雨が多く、上旬の降水量は平年比2.7倍の86ミリとなった。平均気温は高めで、日照時間は少なかった。

豆類は6月中旬以降の低温や日照不足でもともと生育が悪かった。大豆も収穫が始まり、作業進捗率は3.6%で3日遅れ。金時は4日遅れでほぼ収穫を終了。手亡は6日遅れで68.8%、小豆は45.6%で、近年でも特に作業が進んでいない。

ビートも収穫が始まった。根周は平年よりやや太く3日早い生育だが、十勝の生産量見込みは平年よりやや少なくなるとみられる。糖度は平年並みの見込み。ジャガイモの収穫はほぼ終わり、進捗は2日早い。秋まき小麦は種まきが終わり、草丈、葉数、茎数とも順調で、5日早い生育状況。

飼料用トウモロコシの収穫は4日遅れで、ほぼ作業を終えた。天候不良で茎が細く、丈が短いため、全体の収量は3割程度少ないが、相対的に栄養豊富な実が多く、栄養価としては平年より1割下回る程度だという。

10/15現在	区分	本年	平年比	評価	遅早
秋まき小麦	草丈	14.6 cm	128%	長い	早5日
	葉数	3.1枚	143%	多い	
	出芽	98%	—	—	
	茎数	301.4本/㎡	145%	多い	
ジャガイモ	は種	100%	—	—	早2日
	収穫	95%	—	—	早2日
ビート	根周	41.6 cm	107%	やや太い	早3日
	収穫	3.1%	—	—	±0日
大豆	収穫	3.6%	—	—	遅3日
	成熟	100%	—	—	遅3日
小豆	収穫	45.6%	—	—	遅9日
金時	収穫	97.2%	—	—	遅4日
手亡	収穫	68.8%	—	—	遅6日
牧草	2番草	100%	—	—	±0日
	収穫	100%	—	—	±0日
飼料用トウモロコシ	収穫	96.1%	—	—	遅4日
	黄熟	96.0%	—	—	遅7日

管内農作物の生育状況  
十勝総合振興局発表

## いただきますカンパニー 「農山漁村の宝」に選定 全国唯一の畑ガイドツアー

2018年10月20日

畑ガイドツアーなどを手掛ける「いただきますカンパニー」（帯広市、井田美美子代表）が、内閣官房と農林水産省の今年度の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選ばれた。畑を歩き、そこで取れた農産物を食べる「農場ピクニック」という、全国で唯一の取り組みを長年続けていることが評価された。

ディスカバー農山漁村の宝では、農山漁村が持つポテンシャルを引き出し、地域の活性化や所得向上に取り組む優良事例を選定して全国に発信する。5年目の取り組みで、今年は全国1015件の中から32件を選んだ。道内は3件で、このうち十勝管内はいただきますカンパニーのみ。

いただきますカンパニーは2012年に井田代表が個人事業主として始め、翌年に法人化。ガイドツアーの参加者は当初150人ほどだったが、昨年は2600人まで増加。外国人観光客も増え、現在は2～3割程度を占める。

同社では定年退職者や主婦などが有償の畑ガイドとして活躍するほか、畑の中で素材を生かしたシンプルな昼食を提供。小麦畑の景観など、農場に新たな価値を生み出した。

現在は他地域でも農場ピクニックの仕組みを広げようと、北見市や熊本県南阿蘇村でもガイドの育成を行っている。井田代表は「選ばれたことは、多くの支援に対し恩返しができたようでうれしい。畑ガイドの仕組みが他の地域にも広がっていけば」と話す。

11月下旬に首相官邸で行われる有識者懇談会で、選定地区の中からグランプリや特別賞5賞が決まり、発表さ

れる。選定された団体は農水省ホームページで活動が紹介されるほか、さまざまなイベントへの出店支援を通じ全国的な情報発信が行われる。

十勝からの選定は2例目。16年には九神ファーム（芽室）が選ばれ、障害者などの活躍が活動の原動力となっている「アクティブ賞」を受けている。



「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたいただきますカンパニーのスタッフ。右端が井田代表